

厩舎での作業は、ほぼ午前中いっぱいかかる。

お昼休憩をしてからは、乗り手としてのトレーニングの時間が多い。

清水さんは、1年間のプログラムで牧場の調教スタッフを目指す騎乗契約社員。

牧場の人事担当山内さんにお話を伺うと「馬の生産・調教現場で働くことは、学生時代に乗馬などをしていないとなかなか巡り合えない職業のひとつ。騎乗契約社員というのは、未経験者でもエントリーできるチャレンジ枠」だと。現に、清水さんの学生時代は野球に打ち込んでおり、乗馬などを特別に学ぶ機会はなかったそう。

普通であれば、馬術部や乗馬クラブで何年もかけて身につけていく技術を、1年で会得しなければならない。相当なプレッシャーもあるだろうが、それに打ち込む清水さんからは一歩一歩前に進み夢を叶えようとする力強さを感じた。

馬の足音と舞い上がる砂。

そして、

指導する声と

それに応える馬の背から聞こえる声に

ただ息を呑む。



馬に跨がる清水さん。その横で話しかけている方は、牧場の騎乗指導主任でもあり、平成28年度に町民スポーツ賞を受賞した楠木貴成さん。

楠木さんは清水さんらホースマンを目指す若いスタッフに騎乗の指導をしている。「大変なトレーニングにもしっかりとって来ている。経験がない中で、順調に技術を身につけており、とても頼もしい存在。良い結果になることを期待している」と話す楠木さん。その言葉を受け清水さんは「凄く嬉しいですね。その言葉に応えられるように精進するだけです」と練習後に話してくれた。

トレーニング後は、厩舎に戻り馬房で馬のケア。

「いま携わっている馬たちは、これから厳しい競走馬の世界へ。自分が調教した馬の中から、日本や世界で活躍する馬が出てくれば嬉しい。そのお手伝いをしていけるよう、努力し続けたい」。

静かにも心を燃やす清水さん。

こうしてひたむきに物事に向き合っていく人がいるからこそ、産業や文化が築かれていくのだろうと取材を通して感じる事ができた。

